

【内部研修：2025.10.29 HPH 委員会高齢者の孤立】

名前： OT 藤山

【感想】

10月29日に、当院の医師である堀口先生による「貧困と高齢者の孤立」についての学習会に参加しました。講義は大変わかりやすく、興味深い内容で、多くの学びを得ることができました。学習会では、全国および函館市の貧困率や単身世帯の現状、世界と日本の貧困率の比較、日本特有の孤立が生じやすい背景などについて理解を深めました。なかでも印象に残ったのは、国内では相対的貧困率とされる年収120万円以下の方が「6人に1人」、約2,000万人にのぼると推計されていること、そして世界的に見ても日本の相対的貧困率が高い位置にあるという点でした。また、健康の社会的決定要因（SDH）として貧困や社会的孤立が注目されてきた背景には、不健康を助長したり死亡率を高めたりする影響があることを改めて理解しました。さらに、堀口先生が震災時の支援活動を通して感じられた「社会的孤立」のお話も非常に印象的でした。仮設住宅には段差や砂利道などのバリアが多く、外出が困難な方が多かったため、結果として孤立し、そのまま亡くなられるケースも少なくなかったとのことでした。その経験を踏まえ、東日本大震災の支援においては、誰もが集まれる寄り合い所のような場所を整え、車いすの方でも参加できるよう支援スタッフが介助を行い、孤立を防ぐ取り組みをされたというお話が心に残りました。全国の中でも高齢化や高齢単身者が多いといわれる函館市。その函館や道南の地域においても、孤立しにくく、誰もがその場で楽しめる「居心地の良い居場所づくり」を進めていくことの大切さを感じました。今回の学習会を通じ、作業療法士として、函館市の現状や地域環境を踏まえながら、今後もより良い支援ができるよう努めていきたいと感じています。